

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和をご利用者の前で行い、職員間で理念の共有を図っております。	事業所では職員への理念周知を目的に朝の朝礼時に理念の唱和を行っている。毎朝の朝礼時に理念の唱和するのを聞いている利用者も、うなづいたり、「ハイ」と返事したりするなど、職員のみならず、利用者にも事業所の思いが共有化されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑でのいも煮会は、地域の方々をお招きする会として開催しています。地域のお茶の間の参加要請も、回覧板を通じて、お知らせ頂いております。	年1回の芋煮会、お茶の間会への参加、協力のほか、利用者の平均要介護度が高くなり、車イス利用の利用者の方が増えてきているが、近所の住民が利用者のために、細かな心遣いを示してくれるなど、地域の一員として受け入れてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の参加者に、ご利用者の近況報告をさせて頂き、認知症の人への理解と支援についての話し合いが持たれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑でのご利用者への関わり、状況を報告しながら、メンバーの方からのご意見を頂き、より良いサービスに繋がるように、取り組んでおります。	平日の開催日だと家族が仕事で参加できない。週末開催では行政関係者に出席してもらえない。というジレンマに悩まされながらも、事業所では、現在、何とか家族だけでなく近隣住民にも参加してもらおうと、来年度から新たな構想を練っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には、運営推進会議に参加頂き、取り組みや実情を報告し、ご意見を頂いております。	行政との連携面では、管理者、計画作成者として協力し合い、各種の提出書類を届ける時や運営推進会議に出席してもらおう機会などを活用し、その時々迷っていることや困りごとなど、日常的な相談のパイプを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習会に参加し、理解を深め、日常的に拘束しないケアに取り組んでおります。	事業所の中では身体拘束のマニュアルは整備している。身体拘束の研修には自主的に職員が参加し、参加後には研修資料を全職員に配布するなど、内容を共有して拘束しないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての講習会にも参加し、拘束と同様に、日常的に留意しながら取り組んでおります。	虐待防止についてのマニュアルも整備されている。虐待防止についての研修も、自主的に職員が参加し、参加後の研修資料を全職員に配布するなど、内容を共有するよう努めている。管理者は職員がストレスをためないように、日頃から職員の様子を観察し、管理者、計画作成者、ベテラン職員が協力し合って悩みを聞くことで、職員による虐待予防に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度が必要ではないかと思われる事例があり、研修会に参加して理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居に際し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望は随時反映させるように努めております。今年度の苦情はありませんが、頂いた場合は、運営推進会議内や、ご家族様にもご報告致しております。	苦情に限らず、利用者、家族から出た意見、要望は、月1回の運営会議で報告されている。報告された内容の中でハード面等の改善は主に本部で協議検討され、ソフト面については本部と事業所で相談し改善を図るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を年2回計画している。日常的に、意見や相談に応じるよう努めております。	2ヶ月1回のフロア会議では、職員が業務に関する提案や意見を出し合い、協議検討に努めている。まとめた意見や提案は、管理者が月1回の運営会議で報告し、本部にも伝えており、職員意見や提案をサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と管理者の1対1での個別面談を年1回予定しています。日常的に話す機会も多く、相談に応じております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画にある研修参加だけでなく、職員が興味を持った研修には、随時参加させております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHと年1回、合同で交流する機会があり、参加しております。2ヶ月毎に、管理者が各GHを順番に訪問し、意見交換する機会があります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様にご意見を頂き、ご本人が安心して生活ができるよう努めていくことをお伝えしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご本人とご家族様のご意見を大切に伺いながら、本人を共に支援させて頂く心構えをお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、現在のご本人の状態に応じ、受診対応をご家族様に依頼しております。連携医の往診対応や、他の医療機関に入院となるケースもあることをご説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に生き活きと共同生活を送って頂く為に、それを支える立場にある事を意識しながら、より良い関係作りに努めております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況報告と苑だよりを毎月、ご家族様へ発送し、その中で、苑の行事への参加を呼びかけております。ご利用者からもご家族様に連絡できるように致しております。	事業所では「苑だより」をはじめ家族と密に情報交換を行っているが、アンケートの意見として挙げられていた「利用状況報告書の内容が毎月同じ。」という件では、全職員で話し合いが行われ、今後は再検討しなければならないと考えている。	利用者の状態に変わりがないことは、利用者や家族にとっては望ましいことであり、変わりなくどのように生活しているかを、管理者を中心にサービス向上に向けた多様な取り組みでの様子を、より良い形で伝えられるような工夫が期待される。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の美容室で散髪したり、馴染みの定期市で買い物して頂いたり、早朝から村上大祭のおしゃぎり見学をしたりと、ニーズに応じてできる限り、様々な対応をしております。	地域の美容室の人達からも理解を得られ、お店に来る人たちと同様にカットしてもらったりして地域の一員として交流を続けている。職員は、美容室への送迎のみを支援している。また、近くの直売所で、いろんな買い物をしたり、カフェでコーヒーを飲むなど、利用者のニーズをできる限り受け入れ対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、集団の中で孤立せずに、その方らしく生活が営めるような支援を心掛けております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられたとしても、これまでの関係性に変化が生じることはありません。変わりなく、誠意を込めて対応致しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活歴、趣味、馴染みの暮らし方や、時に、わがままとも思われる要望についても折り合いをもちながら対応しております。その方らしさを大切にしたい為です。	日々の関わりの中で、その人らしい思いを引き出すために日常の会話や言動に心を寄せ、言葉にしづらい人には表情や行動から本心を感じ取るよう努めている。自己主張が多く対応に苦慮する利用者には、ニーズが多いのも、その人らしさと捉え、利用者が心地よく過ごせるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の馴染み、生活歴、趣味嗜好の把握をして、その方が生き活きとされるような試みが提供できるように努めております。	利用者、家族からこれまでの生活歴やその人が培ってきた趣味や嗜好などを伺うことで、利用者の「できる力」を發揮させる場面づくりを設け、現場のケアに反映させている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者を理解し、心身共に健やかで、その方らしく生活が送れるように心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員と計画作成担当者を主に、ご本人やご家族の意向を反映したものになるように努めております。	本人、家族の思いを大切にして、担当者が中心となって介護支援専門員と共に介護計画書を作成している。モニタリングは毎月丁寧に実施し、変化に気付けるよう対応している。利用者に変化があった場合には現状に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態や経過は、個別記録に随時残していき、職員間での申し送りを行ないながら、情報の共有を心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	活き活きとされるからこそそのニーズであり、その時々ニーズにできる限りで対応していくことを大切にしております。既存のサービスに捉われず、柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居以前にご利用者と関わりのあったお店を利用したり、地域のお店からの発注を増やして、関わりを継続できればと考えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が、当苑の連携医であるご利用者の割合が全体を占めているので、苑対応にてスムーズな受診、又は、医師に往診して頂いております。	家族の要望により、かかりつけ医から協力医に移行された利用者が多い現状があるが、かかりつけ医への定期受診は家族が基本としながらも、緊急時には看護、介護が協力し合って利用者の状況報告書を作成し、医師からの指示を仰ぐことで本人、家族の安心となっている。また、医師から事業所への往診対応も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務している看護師とは、常に相談や情報の共有を図り、適切な指示のもと、職員全体でご利用者の健康管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関や、ご家族と退院の日時等の連絡を行ない、退院時の状態報告についても把握し、なるべく早期の退院に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点でご利用者の重度化が進んでおり、対応とその先の看取りケアについても理解を深めています。苑の方針である看取り対応は、運営推進会議でも報告しており、今後は、ご家族にも意向の確認と同意を随時行なっていく段階です。	重度化が進む中、看取り支援については事業所の方針である協力医と連携を図りながら必要な時期に、家族の意向の確認と同意を随時行っていきたいとしている。また、職員の異動等があった場合に備え、定期的に勉強会をする必要性を感じており、その体制を整えて行きたいとしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えたマニュアルを作成し、職員間で対応力を強めてきています。	利用者の急変や事故発生時に備えたマニュアルが整備され、事業所内にもAEDが導入されている。実際の急変時や事故発生時に役立つように、日頃より勉強会や訓練も行なわれ、実践力を身に付けるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の避難訓練に参加し、災害時の避難方法をフローにも掲示しております。地域にも緊急時に要請できるよう運営推進会議で働きかけております。	災害時のマニュアルは整備され、事業所では年1回消防署協力の下、夜間想定で通報訓練と避難訓練を実施している。できれば年内に再度実施したい意向である。また、8月の村上市一斉避難訓練(水害対応)にも全員で参加している。避難時は町内会の協力と配慮により、近道を使用させてもらいスムーズに安全に誘導が出来る。災害時に必要な備品も消防署の助言をもとに完備されているが、寒さ対策の毛布等については、今後検討の予定となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格、生活歴、職歴等を把握し、その方の役割や背景に向けた取り組みを行なうように、職員間で心掛けて対応しております。	利用者一人ひとりの人格や誇りを尊重しているが、長い関係性の中で馴れ合いになってしまいがちである。そのため、尊厳やプライバシーを損ねた対応をしていないか、管理者は常に気配りをしている。気になる対応に気付いた時は個別に注意を促し、利用者に優しい環境づくりの実現を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望されることに応じていくように努めることで、思いを職員へ伝えやすい環境作り、ご利用者との信頼関係の構築を図っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑とご利用者で、折り合いを付けながら、できる限り、臨機応変にニーズに対応できるように努めております。急な外出希望に、職員が振り回されることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼し、苑内で実施するだけでなく、地域の美容室も利用して頂いております。ハンドマッサージのボランティアも毎月来苑し、癒しのケアも行なっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的にご利用者と一緒に行なうようにしております。基本メニュー以外にも、季節の物を変更して取り入れたりしております。	日常的に利用者と共に食事作りを行っている。調理や食事準備、後片付けなど利用者個々の力を活かしながら対応をしている。メニューにも変化を付け、季節のものも取り入れるなど、食事が楽しいものになるよう努めている。急なご家族の来訪にも食事の提供がなされ、アットホームな雰囲気を醸し出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材を情報として職員間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングに合わせて頂いたり、殺菌効果のあるお茶でのうがいも継続しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のペースに合わせた声がけと、適宜介助を行ない、環境を整備したり、今できる限りの自立に向けた支援をしております。	個々の習慣や排泄パターンを把握し、その人のパターンに合わせて誘導することを習慣化する取り組みで、それまでの失敗を減らし自立に向けた支援に努めている。トイレでの排泄を基本として、気持ちよく排泄してもらえるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個々に排便状況を把握し、食事、水分摂取量に留意しながら対応しております。処方の下剤投与だけでなく、個々に乳酸菌飲料等を好みに合わせて提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主には午前、時に午後の入浴を実施し、入浴を拒否された場合は、無理強いせず、タイミングを考慮したり、他の方法での清潔保持にも努めております。それも拒否された場合は、他の日に同様に試みる等、臨機応変に対応しております。	一つのユニットは重度化に対応できる浴槽となっており、重度の人は共用し利用者の安心となっている。現在、週2回、主に午前中の中の入浴となっているが、午前入浴に固定されているため、外出の希望や個々のタイミングに合わせた入浴をしてあげたいと悩んでいる。	入浴は利用者にとっての楽しみであり、一人ひとりの生活習慣やその時々々の希望を大切にしたい支援が求められる。業務の見直しや工夫などを検討することで、少しでも利用者の希望に応じられるよう、改善されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜共に、その方に合わせたケアを心がけ、メリハリのある生活の支援を心掛けております。お昼寝時間もあり、夕方、就寝前の足浴にて清潔保持と、リラックス効果で安眠に繋げる支援も試みております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、苑の看護師が主体で行い、看護師からの申し送りを職員間で共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、趣味嗜好を把握しており、その方が得意とされることや、楽しみをさりげなく提供する事で、張り合いのある生活支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	村上大祭のおしゃぎりの御出立は、早朝でしたが、希望に応じて見学して頂くことができました。ご家族様も見たいと申され、一緒に見学され、他の方の対応もして下さり、助かりました。その他、新発田イオンにも、外食と買い物に出かけたりもしております。	周囲が住宅密集地であり、直ぐ近くには農家の直売所、美容院、開業医などが混在している。また駅にも近く、外出には楽しめる環境となっている。お天気や利用者の状態に合わせて、日々、いつでも散歩などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しておりますが、ご希望に応じて買い物を代行したり、一緒に出向いて、買い物をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から、ご本人に電話がきたり、ご本人からご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境となっております。	ゆったりとした広さと外からの採光も吹き抜けの天井により、更に明るさを増し開放感がある。共有スペースは2つのユニットが集合できたり、催しものにも対応できるゆとりの空間となっている。畳のスペースやソファも好みで寛げる解放的空間づくりとなっている。一つのユニットには、食卓テーブル席とその他にも、少し離れた場所には同様のスペースにテーブル席が設置されており、利用者間のトラブル時には移動してもらい、気分転換もはかれる等、多様に活用できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアーは、食事席、リビング、畳の間があり、用途に合わせて、ご利用者がどこで過ごすかは自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方に合わせた環境作りを心掛けております。	馴染みの調度品の持ち込みは自由となっており、家具やタンス、思い出の品々が持ち込まれている。大きな収納庫は作り付けとなっており、整理整頓が出来ている。居心地の良い生活の継続ができるように、安らぎを得ながら安心して過ごせるような支援ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、なるべくこれまでの生活を無理なく継続できるよう、環境設定を工夫し、さりげない介助にて、ご利用者の自立を支援できるよう心掛けております。		